

日本発の新たな民族音楽 "ケルトブルース"バンド  
ハモニカクリームズ/HARMONICA CREAMS

ケルト音楽と電気ブルースの交差する楽曲は、ハモニカ × フィドル × ギターというアコースティックなイメージを越えて10万人の会場を踊らせるパワフルなバンドサウンドを提示。パリ在住のハモニカ奏者/清野美土の独特な世界観に反応するメンバー達からは右へ左へと繊細で強烈な螺旋グルーブが生み出され、民族音楽の新しい側面が開拓されている。

2011年より4年のうちに3作のアルバムを発表し、2012年にはスペインで開催される世界最大級の国際ケルト音楽祭「フェスティバル・デ・オルティゲイラ」のコンクールで日本人として史上初優勝。以後各年にわたり欧州フェスティバルツアーを('13,'14アーツカウンシル東京、国際交流基金後援事業)、国内ツアーではMotion Blue YokohamaやApple store Ginza、アースデイ東京などに出演。近年ではアイリッシュ音楽最高峰グループのひとつ、フルック/FLOOKのフルート奏者ブライアン・フィネガンらを迎えて海外レコーディングを行っている。



清野 美土 /Yoshito Kiyono (ハモニカ)



大淵 愛子 /Aiko Obuchi (フィドル)



長尾 晃司 /Koji Nagao (ギター)

アイリッシュミュージックとは？

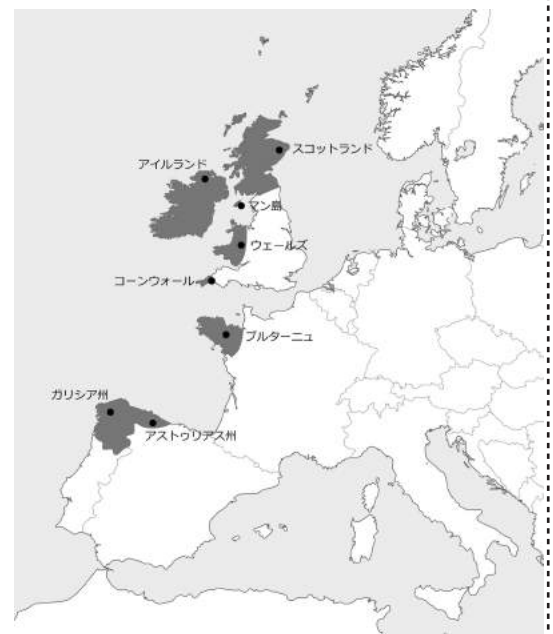
ハモニカクリームズの音楽の背景にあるのは、ケルト音楽の系統の中でもとくにアイリッシュミュージックと呼ばれているもの。

アイリッシュミュージックとは遠い昔からパブなどで夜な夜な演奏され、守り育まれてきた世界各地のケルト音楽のひとつで、アイルランドの伝統的ダンスミュージック。妖精の伝説などから生まれた曲も多く、スタンダード曲は数千曲あるとも云われる。主にフィドル(ヴァイオリン)、ホイッスル、アイリッシュフルート、バグパイプ(イーリアン)、コンサーティナ、ブズーキなどの楽器が同じ旋律をユニゾン演奏し、時にはギター、ピアノといったコード楽器やバウロンという打楽器が入ることもある。途切れることのないメロディーが特徴的で、これを数曲連続で繋げてひとつのセットとして演奏することが多い。これは俗に「螺旋状に盛り上がっていく音楽」とも例えられる。



【ハモニカクリームズ公式ホームページ】

<http://harmonicacreams.com/>



ケルト文化の現存する欧州の国・地域

主催者育成セミナーとは



主催者育成セミナー Facebook

<https://www.facebook.com/shusemi>

浜松市アクトシティ音楽院事業の一つでコンサートの企画運営の基礎を学び、実践する市民講座です。これまでに17歳から75歳までの幅広い年齢、職業の方々が参加され、230名を越す市民修了生を輩出してきました。アーツマネジメント、舞台演出、広報戦略、著作権等の基礎知識を学び、市民目線で企画するコンサートは毎年ご好評をいただいております。修了後も浜松国際ピアノコンクールの開催記念イベントや一般企業のコンサート企画に携わる等、様々な形で音楽の創造都市づくりに参加して参りました。多くの皆様のご支援、各界の専門家のご協力をいただき、おかげさまで今年度で15周年を迎えました。今後も「市民が市民を育てるセミナー」として、より一層の発展を目指します。(第16期生の募集は平成28年3月頃を予定しております。)